

令和 3 年度

事業者番号	0284	事業所番号	028401
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあっては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社リテラ 秩父第一工場		
事業所所在地	市区町村	秩父市	
	字・地番	みどりが丘9番地	
産業分類名(中分類)	23 非鉄金属製造業		
分類番号(中分類)	23		
事業活動の概要	事業内容	自動車用・建設機械用等のアルミ部品の製造加工	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準排出量(9,127t-CO ₂ 年)に対し、削減計画期間の平均削減率を20%以上とする。(必要に応じて排出量取引を活用する。)				
	その他ガス					
エネルギー起源CO ₂ の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	36,508	t-CO ₂	事業所区分 第2区分		
	削減目標量(計画期間合計)	9,127	t-CO ₂			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準排出量(9,127t-CO ₂ 年)に対し、削減計画期間の平均削減率を20%以上とする。(必要に応じて排出量取引を活用する。)				
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,745				

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算 (t-CO₂)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO ₂	5,886				
前年度比 (%)	—				
その他ガス	非エネルギー起源 CO ₂				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
	三フッ化窒素				
温室効果ガスの合計	5,886				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO₂)

CO₂換算 (t-CO₂/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO ₂ 排出量原単位	1.6245				
前年度比 (%)	—				
活動規模の指標					
生産量	t/年	3,623.27			

(4) エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	2019年度：6,457t-CO ₂ 2020年度：5,886t-CO ₂ 9%削減 受注生産量が減少した為エネルギー使用量が減少。に伴いCO ₂ 排出量も減少した。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	9,127	t-CO ₂ /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO ₂ /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO₂)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	9,127	9,127	9,127	9,127	9,127	45,635
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						36,508
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						9,127
実 績	エネルギー起源 CO ₂ 排出量(E)	5,886					5,886
	削減率 (F = (A - E) / A)	35.51%					-
	排出削減量 (G = A - E)	3,241					3,241
各年度の排出量の検証		未実施					

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実 施 予 定 年 度	実 施 し た 年 度	推 計 削 減 量(t) (1年度 当 たり)
	区 番	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	310400	一般管理事項	31_エネルギー使用量の管理	「電力使用量」「LPG使用量」の管理(継続)	R3		
2	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	「コンプレッサー吐出圧力」監視システムによる管理(週末コンプレッサー停止)	R3		44.0
3	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	「コンプレッサー自動制御システム」制御運転による効率管理・工場全体電力の約9%削減(継続)	R3		162.0
4	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	経年劣化によるエネルギー(LPG)の非効率設備 溶解保持炉壁の補修・・・1号炉	R2	R2	20.0
5	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	経年劣化によるエネルギー(LPG)の非効率設備 溶解保持炉壁の補修・・・9号炉	R2	R2	57.0
6	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	経年劣化によるエネルギー(LPG)の非効率設備 溶解保持炉壁の補修・・・16号炉	R2	R2	13.0
7	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	経年劣化によるエネルギー(LPG)の非効率設備 溶解保持炉壁の補修・・・18号炉	R2	R2	33.0
8	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	経年劣化によるエネルギー(LPG)の非効率設備 溶解保持炉壁の補修・・・15号炉	R3		6.0
9	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	経年劣化によるエネルギー(LPG)の非効率設備 溶解保持炉の更新・・・18号炉	R3		92.0
10	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	L3棟(天上360w水銀灯5灯)のLED更新	R3		2.0
11	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	L4棟(天上360w水銀灯70灯)のLED更新	R3		35.0
12	490200	その他	49_その他の削減対策	エアリー漏れ点検3回/年	R3		2.0
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄

平成28年に6台のコンプレッサーに「吐出量計・電力量計」を設置して社内ネットワークシステムで常時エネルギーが管理できる機能を開発して各コンプレッサーの効率を監視している。工場内にはLPGを熱源としたアルミ鋳造用の溶解炉を15台保有しているが、経年劣化・老朽等により燃焼効率の悪化設備を「更新」又は「壁面補修」等を順次おこない「エネルギー使用の効率化」を推進している。令和2年度は4台の溶解炉を補修して燃焼効率を向上させた。尚、受注量（生産量）減の影響により設備が停止、エネルギー使用量が減少してCO2排出量が減少した。